

やはぎウィークリー

旭 敷島自治区の新たな地域自治

新見 克也

自治区がクラウド

ファンディングも

地域自治の先進地として全国的に有名な豊田市旭地区の敷島自治区（330世帯・926人）が、いま地域自治の新たなステップに向けてプロジェクトを進めている。自治区としては珍しいクラウドファンディングにも挑戦中だ。

時代を先取りしているので説明が難しいが、敷島自治区が目指している地域自治の姿は、人口減少のこれからの時代に必要な「助け合いの地域自治」に都市住民も参加してもらおうというものだ。いわゆる「関係人口」を一歩も二歩も進めた考え方だろう。今後注目されると思う。

クラウドファンディング挑戦は、このプロジェクトのカギとなる拠点施設「しきしまの家」の水回りを改修する費用の一部だ。すでに築50年を超える旧杉本保育所の建物を地域

住民、大学生ボランティア、協力企業の手で改修してきたが、これからトイレなど水回りの工事に300万円が必要だという。このうち半分は地元住民の協賛金で賄い、残り半分の150万円をクラウドファンディングで地域外の人にお願している。資金集めというよりも、プロジェクトを広く知ってもらうためのクラウドファンだろう。

クラウドファン支援してくれた人には、「しきしまサポート区民」の制度も用意されている。将来的には、イベント参加やボランティア参加に対するポイント発行、地元産の商品や農産物などの優先購入など、さまざまな形で地域自治に関わってもらおうと考えているようだ。

来春4月にオープンする「しきしまの家」は、地域住民も、サポート区民も、移住に興味がある都市住民も、みんなが気軽に立ち寄って本音を聞ける「敷居の低い窓口」のような場所になる。喫茶店のオープンが決まっているし、週末居酒屋、夏祭り、野菜販売などいろいろな構想がある。

限られた紙面で伝えるには地域の想いが大きすぎるので、詳細は左の2次元コードからク



ラファンサイトを
読んでほしい。